

VI 弥生時代の遺構と遺物

調査地区内からは弥生時代の貯蔵穴2・壺棺墓1・小ピット・溝がみつまっている。遺構面は既に奈良時代の整地などによって削平されており、遺存状態はよくない。調査地区内の各所から遺構、遺物を検出している。

貯蔵穴（SK1200） 九坪の井戸SE1180の西南にある。平面形は156cm×140cmの円形で、深さ102cmのスリバチ状を呈する。地山の灰黄色粘土層に掘り込んでいる。有機質をふくむ堆積層のなかから完形品をふくむ16点の第Ⅴ様式の土器が出土した。

貯蔵穴（SK1416） 南北小路SF1331上に検出した。90cm×80cmの平面が楕円形の土坑で、深さ50cmある。なかから完形品をふくむ4点の第Ⅴ様式の土器が出土した。

壺棺墓（SK1409） 十五坪の僧房の位置で検出した。直径60cm、深さ23cmの円形土坑に壺形土器が口縁側の上に傾斜して据えられていた。

遺物 SK1200出土の土器の内訳は壺2・長頸壺3・鉢4・甕1・高杯4・器台2である。壺・甕・鉢は、小さく不安定な底部を持ち、文様で飾るものはない。高杯は脚部に円形透しを持つものと持たないものがあり、器台は円形透し（3孔）が1段のものと2段のものがある。SK1416出土の土器は壺1・長頸壺2・甕1である。SK1200出土のものと形態上の差はみられない。

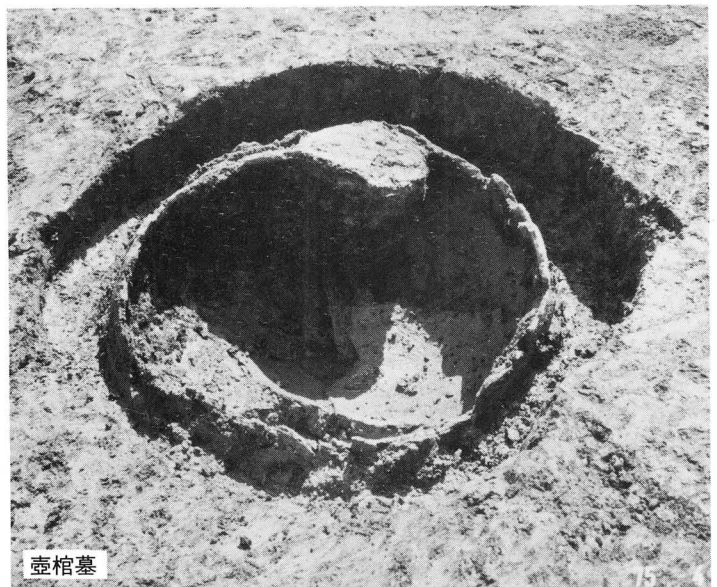
壺棺に使用された土器は上半部を欠失しているが、復原高40cm前後、小さな平底を持つ壺で、体部は篋磨きする。壺棺、甕棺に多くみられる底部あるいは体部下半への穿孔はない。



貯蔵穴SK1416



SK1416出土の土器



壺棺墓